



Java Desktop System Configuration Manager Release 1.1 ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-0946

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

サン・マイクロシステムズ株式会社、Sun Microsystems、サン・マイクロシステムズ株式会社のロゴ、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2、および Solaris は、Sun Microsystems の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の暗黙の保証を含み、それに限定されない、明示的であるか暗黙的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。



041129@10536



目次

1	ご使用にあたって	5
	システム要件	5
	インストールについての注意	5
	既知の問題点	6
	トラブルシューティング	6
	Sun Java System Directory Server 5.2 Hotfix 1	6
	デフォルトの CLI ブートストラップファイルに対する変更	7
	ログインモジュールの SSL サポートの実装	7
	『開発ガイド』の訂正事項	8
	マニュアル	8
	問題報告とフィードバック	9

第 1 章

ご使用にあたって

このマニュアルでは Java™ Desktop System Configuration Manager, Release 1.1 についての情報を記載しています。既知の問題点とその回避手段、技術的な注意事項、補足資料の参照先をはじめとして、Release 1.1 で必要になる重要な情報について説明しています。必ずこのマニュアルをお読みになってから Java Desktop System Configuration Manager (このマニュアルでは Configuration Manager とも呼んでいます) を使い始めるようにしてください。

システム要件

システム要件の情報については、『*Java Desktop System Configuration Manager, Release 1.1 インストールガイド*』を参照してください。これは <http://docs.sun.com> で参照できます。

インストールについての注意

Java Desktop System Configuration Manager を再インストールする必要がある場合は、最初にシステム上にすでに存在している Configuration Manager をアンインストールしてください。

既知の問題点

次の一覧表に Java Desktop System Configuration Manager に関する既知の問題を挙げます。新しいバグをご報告いただく前に、ご確認ください。

バグ ID	説明と回避手段
5004807	Red Hat 7.3 をインストールしようとする、次のようなエラーが発生する。 <pre>bash: /root/.bashrc: Permission denied error</pre> このエラーは特に悪い結果をもたらすものではないので、無視してかまわない。

トラブルシューティング

Java™ Web Console から Configuration Manager を起動したあとで直接 HTML ページに例外が表示される場合は、次を試してください。

- キャッシュディレクトリ
(`/usr/share/webconsole/work/Standalone/localhost/apoc/jsp/`) をオフにします。Tomcat では、この場所にコンパイル済み JSP が格納されます。
- `policymgr.cfg` ファイルが存在することを確認します
(`/usr/share/webconsole/apoc/WEB-INF/`)。
- `policymgr.cfg` ファイルに正しいユーザー権利が割り当てられていることを確認します (`noaccess:noaccess` に対する読み取りアクセス)。
- ホスト、ポート、baseDN など、`policymgr.cfg` ファイルに格納された LDAP データと LDAP サーバーが対応することを確認します。

Sun Java System Directory Server 5.2 Hotfix 1

このパッチはバグ 4903368 のフィックスのために当てます。このフィックスがないと、エンティティに割り当てられたポリシーグループを 5 つ以上削除することをユーザーが選択した場合、Configuration Manager は割り当てられたポリシーグループをすべてそのエンティティから削除します。さらに重要なことは、ルートエンティティに割り当てられたポリシーグループを 5 つ以上削除することをユーザーが選択した場合、割り当てられたすべてのポリシーグループがそのエンティティから削除されるだけでなく、Configuration Manager LDAP メタ設定データも Directory Server から削除されます。createServiceTree インストールスクリプトをもう一度実行するまで、Configuration Manager では Directory Server を使用できません。

デフォルトの CLI ブートストラップファイルに対する変更

『Java Desktop System Configuration Manager Release 1.1 管理ガイド』の「ブートストラップ情報へのアクセス」のセクションでは、`polycmgr.cfg` というデフォルトのブートストラップファイルが CLI のインストール時に `/etc/apoc` にインストールされると記述されています。この `polycmgr.cfg` ファイルはインストールされなくなりました。現在、ユーザーはブートストラップファイルを `--file (-f)` オプションによって指定するか、`--base (-b)` などのその他のブートストラップオプションによって指定することができます。それ以外の方法として、CLI はデフォルトで `pgtool.properties` というブートストラップファイルをユーザーのホームディレクトリに置きます。

ログインモジュールの SSL サポートの実装

LDAP サーバー (ポリシーバックエンド) と Configuration Manager の間で SSL 通信を設定するには、次の手順を実行する必要があります。

1. 前提条件として、SSL によるクライアント認証をサポートするよう LDAP サーバーを構成する必要があります。詳細については、<http://docs.sun.com/source/816-6698-10/> の『Sun ONE Directory Server 5.2 Administration Guide』を参照してください。
2. LDAP サーバーの証明書またはその CA の証明書を、Java Web Console の信頼される証明書のデータベースにインストールします。

```
# cd $JAVA_HOME/bin
# ./keytool -import -file server_cert.cer -keystore /etc/opt/webconsole/keystore
```

注 - デフォルトの初期キーストアパスワードは **changeit** です。このパスワードを生産環境で変更しておくことは重要です。

3. 次のスクリプトを実行して、Configuration Manager がご使用の LDAP サーバーをポイントするようにします。

```
# /usr/share/webconsole/apoc/configure
```

4. `smreg` コマンドを実行して、LDAP ログインモジュールの SSL 通信が可能になるようにします。

```
# /usr/sbin/smreg add -m -b optional -o
ldap.provider.url="ldaps://<LDAP_SERVER_HOST>:<LDAP_SERVER_PORT>" -o
ldap.provider.authentication=simple -o ldap.baseDN="<LDAP_BASEDN>" -o
ldap.userAttribute="<LDAP_USER_UNIQUE_ATTRIBUTE>" -o
ldap.search.userDN="<LDAP_SEARCH_USER>" -o
ldap.search.password="<LDAP_SEARCH_PASSWORD>"
com.sun.apoc.authentication.LdapLoginModule;
```

注 - LDAP_SERVER_HOST および LDAP_SERVER_PORT などのプレースホルダは、手順 3 で Configuration Manager の設定中に指定した実際の値に置き換えられるのでなければなりません。ldap.search.userDN および ldap.search.password パラメータは匿名 LDAP アクセスが許可される場合は省略可能です。

5. Java Web Console を再起動します。

```
# /usr/sbin/smcwebserver restart
```

『開発ガイド』の訂正事項

『Java Desktop System Configuration Manager Release 1.1 開発者ガイド』の第 1 章「Configuration Manager の概要」の Template DTD に関する記述は、policytemplate.dtd ファイルに書かれている正しい説明と次の 2 つの点で異なります。

- visual 要素はオプションの要素で、必須の要素ではない。
- chooser 要素の apt:listDataPath 属性は存在しない。その代わりに apt:dataPath を使用する。

マニュアル

Release 1.1 の Java Desktop System Configuration Manager マニュアルは <http://docs.sun.com> から入手可能です。docs.sun.com™ では Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。

次の表に、各マニュアルに記載された手順と概念を示します。

記載された情報	参照先
ソフトウェアについての最新の情報およびマニュアル。	ご使用にあたって
Configuration Manager および各種コンポーネントのインストール、サポートされるプラットフォームおよび環境。	インストールガイド

記載された情報	参照先
実例を示した使い方のシナリオをはじめとした、Configuration Manager の一般的な使用方法。	システム管理
Configuration Manager のテンプレートの作成と導入を行う開発者のためのガイドライン。	開発ガイド
Configuration Manager での作業中に使用可能な、一般的な使用方法についての手順。	オンラインヘルプ

問題報告とフィードバック

一般的なフィードバックや、ソフトウェアのバグに関する報告は jdsconfig-feedback@sun.com 宛に電子メールにてお送りください。

バグを報告する場合、次の情報をお送りください (該当する場合)。

- 問題が発生する状況と、実行処理への影響を含む問題の説明。
- コンピュータのタイプ、オペレーティングシステムのバージョン、ブラウザのタイプとバージョン、製品の Web ページ言語 (ロケール) とパッチを含むバージョン、そして問題に影響している可能性があるその他のソフトウェア。
- 問題を再現するために用いた詳細な手順。
- すべてのエラーログまたはコアダンプ。

